

令和7年度 調布市立第二小学校 学校経営計画（学校長 関村 明子）

学校の教育目標

「かがやけ二小の子」 ○「か」んがえる子 ○「が」んばる子 ◎「や」さしい子（重点） ○「け」んこうな子

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

☆目指す学校像『子どもたち、地域・保護者、教職員の笑顔あふれる学校』

・自分を大切に子ども

- 1 子どものよさを認め、引き出し、一人一人を大切にする
- 2 確かな学力を身に付ける
- 3 健康と安心・安全を大切にする
- 4 自己有用感をもたせる

・相手を大切に子ども

- 1 互いを尊重し、認め合う
- 2 思いやりの気持ちを育む
- 3 感謝の心を育てる
- 4 多様性を認め合う

・地域を大切に子ども

- 1 地域に根差した教育活動の推進
- 2 家庭や地域と連携し、協力し合う

◎「Team 二小」～one for all, all for one～（一人はみんなのために、みんなは一人のために）

一人一人の「よさ」を生かし、「二小 PRIDE」を胸に、「Team 二小」の一員として、学校・地域・保護者が力を合わせて笑顔とともに教育活動を進めていく。

ビジョンの設定理由
(本校の現状と課題)

- ・明るく素直な児童が多く、上級生が下級生を気遣うなど、学年を超えた関わりが見られる。
- ・学習や行事に意欲的に取り組む児童が多い。しかし、特別な配慮を要する児童が増加傾向にあり、学力や体力には二極化が見られる。
- ・令和7年度に、大幅な職員の異動があったため、①教育課程の継続性の確保について、②安全を最優先とした生活指導について、特に留意する必要がある。
- ・学校教育に対して協力的な保護者が多いが、共働き家庭がほとんどのため、PTA 活動の在り方については、年々見直しが図られている。
- ・代々、この地域に住む層と、新しく地域住民となった層との間には、学校への思いや考え方に差が見られる。今年度は開校80周年の節目の年であることから、「学校と地域との連携」をさらに深めていく。

中期的な経営目標

- 1 思いやりの心をもち、多様な価値観を認め合える児童を育成する。
 - 2 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を行うとともに、自ら学びに向かう児童を育成する。
 - 3 自ら健康な生活を送ろうとする児童を育成する。
 - 4 安全・安心な学校づくりを推進する。
 - 5 児童一人一人に応じたよりよい指導・支援のための特別支援教育を推進する。
 - 6 地域の教材・教育力を生かした教育活動の充実と学校運営協議会を中心とした地域との連携をさらに推進する。
- 人・組
- ・主幹教諭、主任教諭を中心に、教員の授業力・組織貢献力を高める。
 - ・各自のキャリアプランを明確にし、早期から学校マネジメント能力の視点を育成していく。

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
1 異学年交流「縦割り班活動」を通年でを行い、自己のよさや力を活かす経験を通して、自己肯定感や自己有用感を高める教育の充実を図る。	1 思考場面を大切にし、自分の考えを明確にもたせて、ペアや小グループ及び全体での話し合い活動を取り入れることで、自分の考えを分かりやすく伝えたり、友達の考えと比較したりする対話的な学習を推進する。	1 日々の体育授業や体育的活動を充実させると共に、児童の運動の日常化を目指した取組の充実を図り、体力向上を目指す。
2 人権尊重の精神を基盤とし、児童、教師、保護者、地域が一体となっていじめや体罰を許さない学校風土を醸成する。自分の「よさ」や他者の「よさ」、互いの違いを認め合い、自分も他の人も大切に育てる児童の育成を図る人権教育を推進する。	2 習熟度別指導や講師による指導を活用し、学習の基盤となる資質・能力を明確にし、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の向上を目指す。また、各学年や児童の学習状況や学習内容等に応じて教科担任制を導入し、学習指導の充実を図る。	2 校庭の芝生を有効活用した運動や体力テストの結果を踏まえた運動教具の開発や環境整備を推進する。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
1 学校評価アンケートでは、学習規律や基本的な生活習慣の確立等、縦割り活動とあいさつ運動について、肯定的評価80%以上をめざす。	1 一単位時間または単元の中で児童が自分の考えを表現し交流する場面を必ず設定するとともに、学校評価アンケートでは「学習理解」「指導の工夫」に関する肯定的評価80%を目指す。	1 体育授業では運動量を十分に確保し、体力の向上を図る。また、学期毎に運動の日常化に結びつくようなカードを作成・活用し、学校評価アンケートでは、体力向上に関わる肯定的評価80%を目指す。
2 学校評価アンケート・児童アンケートにおいて、「楽しく学校生活を送っている」という項目で肯定的評価80%以上を目指す。	2 全国及び東京都が実施する学力調査では、各教科・観点等における正答率において、都平均値を上回る結果となることを目指す。	

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

4 安全・安心な学校づくりの推進	5 特別支援教育の推進	6 地域との連携
(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）
1 毎週1回、生活保健夕会を開催し、共通理解を図るとともに、週ごとに適時性のある安全指導を行えるようにする。毎月の安全点検と合わせ安全指導を毎月実施する。	1 就学支援シート、個別指導計画、個別支援計画の効果的活用を図り、校内委員会を基軸として校内通級教室、都・市SC、SSW、保護者、外部機関と連携を深め、一人ひとりのニーズに応じた支援を行う。	1 学校運営協議会による意見や評価を積極的に取り入れ、学校運営の改善を図るとともに、取組状況について積極的に情報発信を行う。
2 食に関する教育計画を基に食に関する指導の充実を図る。また、毎日、朝は学級担任と児童、給食配食時には管理職、学級担任、栄養士、調理師、児童本人による除去食等の複数点検を行い、食物アレルギー事故ゼロを維持する。	2 職員打ち合わせを活用し、全教職員が情報共有を行い、特別に支援が必要な児童に対する理解を深めるとともに、よりよい支援の在り方について全職員が共通認識をもち支援にあたることができるようにする。	2 地域人材や地域の教育材を生かした第二小ならではの教育活動を推進する。開校80周年に向けては、これまで同様、地域関係者の協力を得ながら、地域・保護者、そして子どもたちにとって思い出深い取組となるよう、学校が連携し準備を進めていく。
(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）
1 学校評価アンケートにおける「安全指導」「規範意識」「学校生活」の項目について、肯定的評価80%以上を目指す。	1 特別支援教育コーディネーターが中心となって、校内委員会を月1回開催し、配慮を要する児童への支援の在り方について検討する。	1 学校運営協議会を年6回開催し、学校運営について意見を求めるとともに、地域連携にかかわる評価を受ける。
2 毎日、朝は学級担任と児童、給食配食前、配食時には管理職、学級担任、栄養士、児童本人による除去食等の複数点検を行うとともに、喫食を伴う教育活動も含め、食物アレルギー事故ゼロを維持する。	2 今年度中に、配慮を要する児童全員について、校内共通の「情報共有シート」を作成し、全教職員が共通の認識をもって支援に当たることができる体制を整える。	2 自己点検や学校評価アンケートでは、「地域連携」「情報発信」の項目について80%の肯定的評価をめざす。

人材育成・組織運営

○「Team 二小」～one for all, all for one～（一人はみんなのために、みんなは一人のために）

- 一人一人の「よさ」を生かし、その力が結集すれば、より大きな力となる。「二小PRIDE」を胸に、「Team 二小」の一員として、学校・地域・保護者が力を合わせて笑顔とともに教育活動を進めていく。子どもたちの成長を願いながら、多様な課題、価値観、対応に対しては、一人で抱え込まず、組織的に対応していく。職員一人一人の「よさ」を活かして、それぞれの役割を果たしながら、「Team 二小」として全教職員一丸となり教育活動を進めていく。
- 主幹教諭、主任教諭を中心に、職層ごとの役割を明確にして、組織の一員としての自覚をもち、達成感を味わうことで、組織貢献意欲を高めるとともに、人材育成につなげていく。